

家畜改良センター岩手牧場の防疫体制について『防疫ライン編』



乳用牛（ホルスタイン種）の育種改良を実施している岩手牧場では、家畜の病気の元となる病原体を「持ち込まない」「持ち出さない」ために、《防疫ライン》を設定しています。近隣の方に散歩していただける場所もあれば、草地や牛舎など、専用の作業着等の着用や消毒が必要な場所もあります。ひとたび発生すれば、法律により牧場内の全ての牛を処分しなくてはならない病気もあることから、特に『持ち込まない』ことが重要です。今回は、その《防疫ライン》についてご説明します。

当牧場では、右下の図のように敷地を4つのラインで区分し、数字が大きくなるごとに防疫対策を強化しています。一次ラインは誰でも立入り可能ですが、二次ライン以降は事務所で受付、車両の消毒や専用作業着の着用等をしてからでないと入れません。このようにライン分けにより立入制限を行い、出入り口で消毒や着替え等を実施することで病気の侵入リスクを低減します。二次～四次ライン内は衛生管理区域として、法律による「飼養衛生管理基準」に基づいて衛生管理を行っています。

岩手牧場から見える岩手山は美しく、写真撮影や散歩をする方々も多くおられます。来場される皆様におかれましては、かわいい牛たちを病気から守るため、ご理解とご協力をお願いいたします。

農家の皆様方におかれましては、当場のライン分けを防疫対策の参考事例としてご活用いただくと幸いです。

